

神戸の農業・土木遺産

県民だよりひょうご神戸版（2024年7月）で紹介しました。

現役で活躍中！暮らしを守り支えてきた

神戸の農業・土木遺産

自然と向き合うまく共生していくための、先人たちの知恵と汗の結晶ともいえる農業や治山の施設群。今もひそやかに私たちの暮らしを支えています。

土砂災害の教訓から築かれた摩耶山の治山遺構



阪神大水害の復旧治山工事で整備された護岸工とカツラ林



阪神大水害当時の旧摩耶観光ホテルと崩壊状況



現在の旧摩耶観光ホテル

六甲山は現在では樹木が茂り、一面緑に覆われていますが、過去たびたび災害に見舞われ、土砂災害も発生していました。特に被害が大きかった1938(昭和13)年の阪神大水害では、神戸市で600人以上が亡くなりました。

この時の災害復旧を機に本格的な治山工事が実施されることとなり、旧摩耶観光ホテルの南斜面では、丁寧な人力仕事による石積み

の治山ダムや流路工などの治山施設が施工されました。併せて植栽したカツラやイロハモミジの苗木はすっかり大木に成長しており、治山施設とともに神戸市街地を守り続けています。

詳しくは [「六甲山の災害展」](#) 

農地を潤し恵みをもたらす淡山疏水



練部屋(ねりべや)分水所

神戸市西区から稲美町にかけて広がる「いなみ野台地」は、青々とした穀倉地帯です。しかし、かつては農業用水の不足により稲作には不向きな土地でした。明治から大正時代にかけて当時の人々は大変な困難の下、神戸市北区の淡河川や山田川から水を引いてきたのです。この水路は淡山疏水と呼ばれ、農地を潤し、130年経過した現在でも、地元の人々の努力により機能を果たしています。そして、疏水とため池が織り成す水のネットワークは、この地域特有の文化的景観を形成していることから社会的に高い評価を受け、「世界かんがい施設遺産」や「日本疏水百選」などに認定・登録されています。

施設を管理している東播用水土地改良区は、淡山疏水の歴史と役割を多くの人々に末永く知ってもらうため、小学生を対象に現地学習会を開催。水利施設や地域農業への関心を高め、将来にわたる淡山疏水応援者の育成・確保に向けて、県もこの活動を応援しています。

INTERVIEW

今回紹介した治山遺構近くの旧摩耶観光ホテルを見学するツアーを企画している摩耶山再生の会 慈 憲一さんに聞きました。



どのような思いで活動していますか。

かつて摩耶山は、天上寺への参拝客をはじめ、食事所や宿泊施設などに多くの人々が訪れ、にぎわいました。そんな山の歴史を知ってもらうため、摩耶山再生の会では、山道を下りながら歴史の痕跡を紹介する「摩耶山・マヤ遺跡ガイドウォーク」を開催しています。普段は立ち入れない旧摩耶観光ホテルも案内していることから、人気のツアーとなっています。

周辺には古い治山施設がありますね。

過去には山肌が崩れ、大雨のたびに土砂災害が街を襲っていました。80年以上も前に先人が成し遂げた治山施設がその姿を残し、植えた苗木が見事に成長して私たちの生活を守ってくれています。

県では、摩耶山再生の会と連携し治山遺構と摩耶山の魅力を紹介するツアーを計画中です。後日、紙面のインフォメーションなどを通じて案内します。

問 治山遺構: 六甲治事務所工務第1課 ☎078-742-8423 ☎078-734-6021 淡山疏水: 東播用水土地改良区 ☎0794-87-0545 ☎0794-87-0547